

同一インターフェイス上の Easy VPN クライアントとサーバ

内容

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[背景説明](#)

[問題](#)

[Cisco IOS の動作の変更](#)

[解決方法](#)

概要

このドキュメントでは、Cisco Easy VPN クライアントおよび Cisco Easy VPN サーバを、Cisco IOS[®] バージョン 15.2(1)T 以降を実行している同じインターフェイスで使用する場合に発生する問題について説明します。

前提条件

要件

VPN の設定に関する知識があることが推奨されます。

ヒント：設定の詳細については、[Easy VPN 設定ガイド](#)、[Cisco IOS リリース 15M&T を参照してください](#)。

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、Cisco IOS バージョン 15.2(1)T 以降に基づくものです。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期（デフォルト）設定の状態から起動しています。対象のネットワークが稼働中である場合には、どのようなコマンドについても、その潜在的な影響について確実に理解しておく必要があります。

背景説明

Cisco IOS バージョン 15.2(1)T 以前では、以降のバージョンではサポートされなくなった以下の機能がサポートされています。

- Easy VPN Remote と Easy VPN Server を同じインターフェイスでサポートする：この機能

を使用すると、Easy VPN Remote および Easy VPN Server が同じインターフェイスでサポートされます。これにより、同じインターフェイスで、別の Easy VPN Server へのトンネルを確立すると同時に、Easy VPN Client を終端することができます。Easy VPN Remote を使用して、社内 Easy VPN Software Server へ接続すると同時に、ローカル ソフトウェア クライアント ユーザを終端する遠隔地などでは、この機能がよく使用されます。

- Easy VPN Remote とサイト間を同じインターフェイスでサポートする：この機能を使用すると、Easy VPN Remote とサイト間（暗号マップ）が同じインターフェイスでサポートされ、別の Easy VPN Server へのトンネルの確立と別のサイト間を同時に同じインターフェイスで行うことができます。サイト間トンネルを介してリモート ルータを管理するとともに、Easy VPN Remote を使用して、リモート サイトから社内 Easy VPN サーバへの接続を行うサードパーティの VPN サービス プロバイダーなどでは、この機能がよく使用されます。

ヒント：付加的な情報については、Easy VPN 設定ガイド、Cisco IOS リリース 15M&T の [Easy VPN Remote と Easy VPN Server を同じインターフェイスでサポートする](#) セクションを参照してください。

問題

暗号マップを IOS Easy VPN ですでに設定されたインターフェイスに適用すると、暗号マップ コマンドはそのインターフェイスに適用されません。

Cisco IOS の動作の変更

Cisco IOS バージョン 15.2(1)T 以降では、複数のセキュリティ アソシエーション データベース (SADB) が各インターフェイスに追加されないため、この設定はサポートされていません。

注：この問題は、Cisco Bug ID [CSCtx47112](#) で追跡されています。Ezvpn に設定されている同じインターフェイスにクリプトマップを適用できません。

解決方法

この問題を解決するためには、暗号マップ設定をレガシー Easy VPN と分け、そのうちの 1 つを仮想トンネル インターフェイスベース (VTI ベース) の設定に移動させます。

- サイト間の暗号マップを、トンネル保護またはセキュア VTI (SVTI) 付きの Generic Routing Encapsulation (GRE) /IPSec へ変更します。
- Easy VPN を FlexVPN に変更します。